

令和6年10月11日  
統計部公表

## 作物統計調査

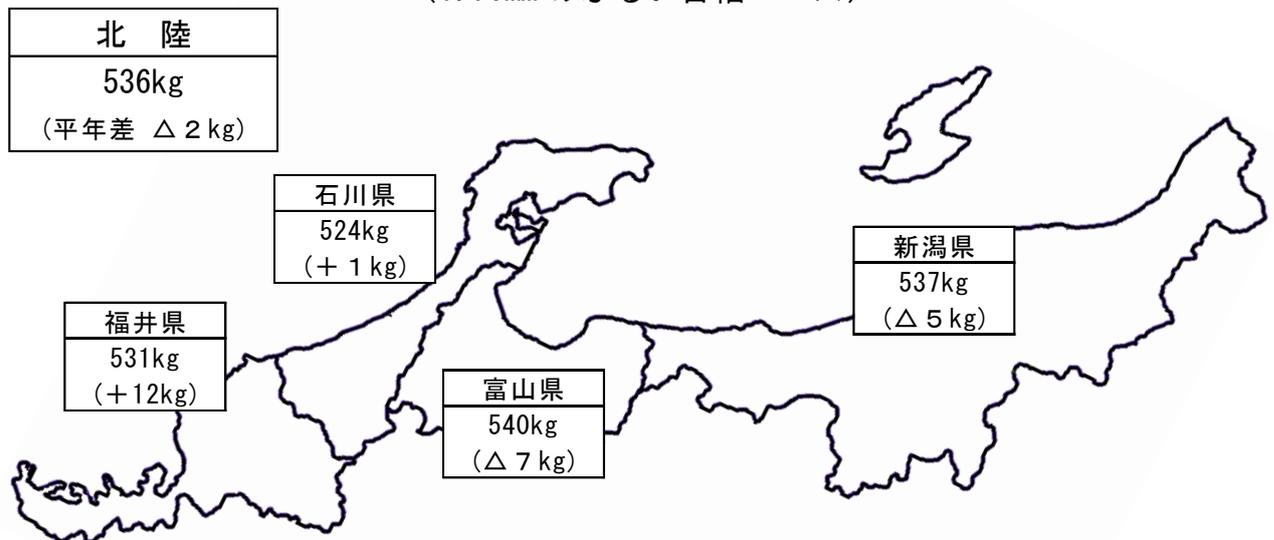
### 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（北陸）

－ 10a 当たり予想収量は536kgの見込み －

#### 【調査結果の概要】

- 1 令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は20万5,300haで、前年産に比べ3,000haの減少が見込まれる。うち主食用作付面積は17万5,800haで、前年産に比べ1,800haの増加が見込まれる。
- 2 9月25日現在における北陸の10a 当たり予想収量は536kgが見込まれる。
- 3 農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は99「平年並み」が見込まれる。これは、5月下旬及び6月上旬の日照不足等の影響により穂数がやや少なくなったことから、全もみ数はやや少なくなったものの、総じて天候に恵まれたためである。
- 4 主食用作付面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は94万400tで、前年産に比べ4万6,400tの増加が見込まれる。

図1 県別10a 当たり予想収量（9月25日現在）  
（1.70mmのふるい目幅ベース）



- 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積であり、主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である。
- 10a 当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a 当たり予想収量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

◎累年データ

水稻の年次別推移（北陸）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	子実用	子実用					
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 26 年産	215,500	212,500	536	1,139,000	190,000	1,019,000	100
27	214,100	207,800	531	1,104,000	184,100	977,800	99
28	213,400	205,600	567	1,165,000	182,100	1,031,000	107
29	212,500	204,100	529	1,079,000	180,100	952,100	98
30	212,700	205,600	533	1,096,000	184,800	985,300	98
令和 元	212,800	206,500	540	1,115,000	186,400	1,007,000	101
2	212,300	206,400	550	1,135,000	185,900	1,021,000	102
3	211,500	201,800	531	1,072,000	177,900	944,600	97
4	209,900	198,200	541	1,072,000	173,500	938,800	100
5	208,300	197,700	513	1,015,000	174,000	894,000	97
6(概数値)	205,300	..	536	..	175,800	940,400	99
対前年差	△ 3,000	nc	23	nc	1,800	46,400	2

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 注：1 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積である。  
 2 作付面積（子実用）とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から青刈り面積（飼料用米・WCS 用稲等を含む。）を除いた面積である。  
 3 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量(令和6年産は予想)である。  
 4 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。  
 5 作況指数は、10 a 当たり年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、以下により算出している。  
 平成26年産 : 1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出。  
 平成27年産から令和元年産まで： 北陸地域の農家等が過去5か年間に実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅で選別された玄米を基に算出。  
 令和2年産以降 : 各県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出。  
 6 「..」は、未発表であることを示している。  
 7 「nc」は、令和6年産作付面積（子実用）及び収穫量（子実用）が未発表のため計算不能であることを示している。

水稻の年次別推移（新潟県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	子実用	子実用					
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 26 年産	121,700	120,100	547	656,900	105,300	576,000	101
27	121,300	117,500	527	619,200	102,400	539,600	97
28	121,300	116,800	581	678,600	101,500	589,700	108
29	120,900	116,300	526	611,700	100,300	527,600	96
30	121,500	118,200	531	627,600	104,700	556,000	95
令和 元	121,900	119,200	542	646,100	106,800	578,900	100
2	121,800	119,500	558	666,800	106,700	595,400	103
3	121,400	117,200	529	620,000	101,800	538,500	96
4	121,100	116,000	544	631,000	99,900	543,500	99
5	120,400	115,800	511	591,700	100,600	514,100	95
6(概数値)	119,800	..	537	..	101,400	544,500	98
対前年差	△ 600	nc	26	nc	800	30,400	3

◎累年データ（続き）

水稻の年次別推移（富山県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	子実用	子実用					
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 26 年産	40,200	39,500	541	213,700	35,700	193,100	101
27	39,500	38,600	559	215,800	34,200	191,200	103
28	39,300	38,100	566	215,600	33,800	191,300	106
29	39,100	37,600	546	205,300	33,300	181,800	100
30	38,900	37,300	552	205,900	33,300	183,800	102
令和 元	38,900	37,200	553	205,700	33,300	184,100	102
2	38,900	37,100	556	206,300	33,200	184,600	103
3	38,700	36,300	551	200,000	32,200	177,400	99
4	38,100	35,500	556	197,400	31,300	174,000	101
5	37,800	35,200	528	185,900	31,200	164,700	98
6(概数值)	37,400	..	540	..	31,200	168,500	99
対前年差	△ 400	nc	12	nc	0	3,800	1

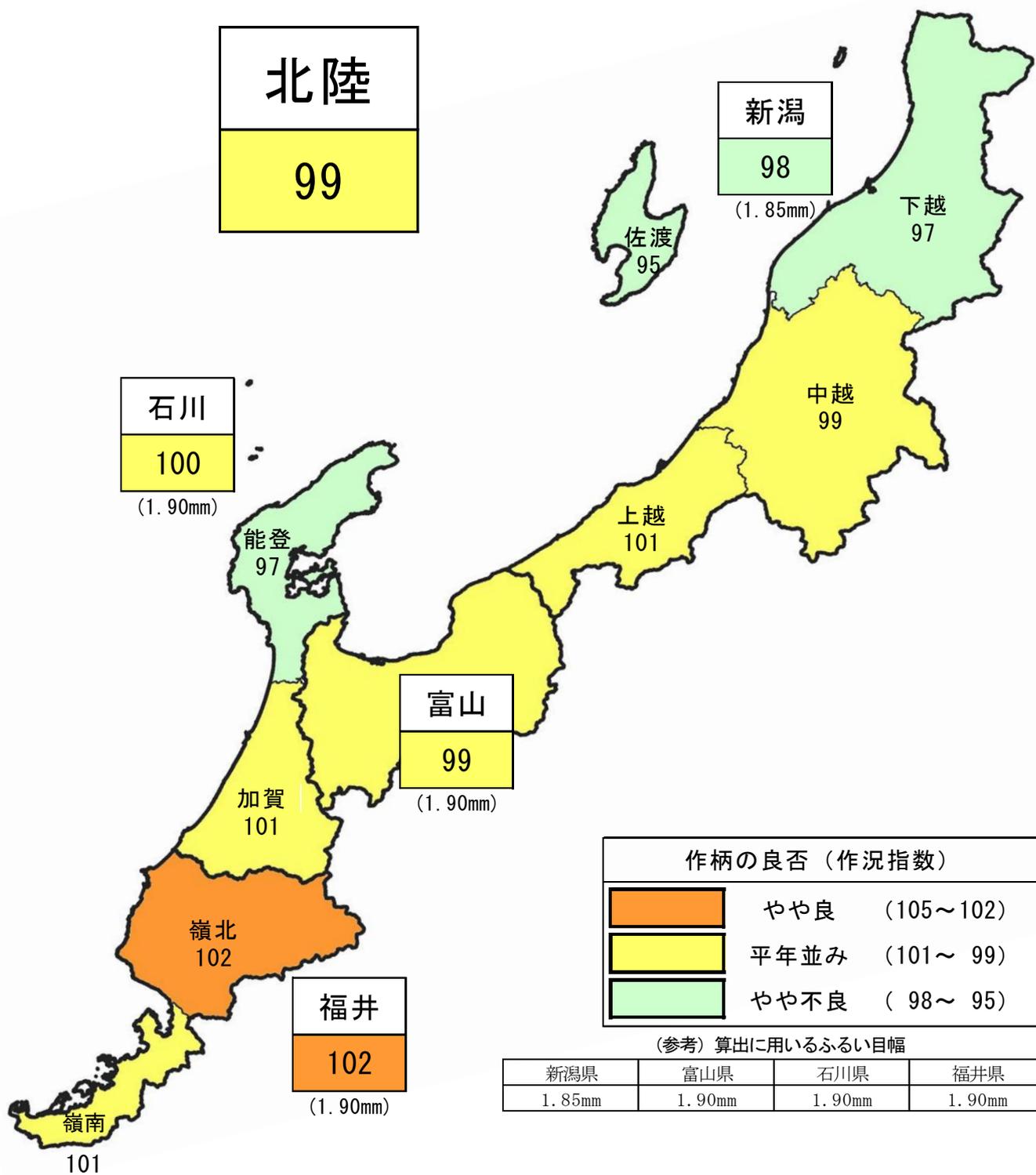
水稻の年次別推移（石川県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	子実用	子実用					
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 26 年産	27,000	26,600	508	135,100	24,300	123,400	98
27	26,700	26,100	522	136,200	23,600	123,200	101
28	26,400	25,600	534	136,700	23,200	123,900	104
29	26,100	25,300	519	131,300	23,200	120,400	99
30	25,800	25,100	519	130,300	23,200	120,400	100
令和 元	25,600	25,000	532	133,000	22,700	120,800	102
2	25,400	24,800	530	131,400	22,600	119,800	101
3	25,200	23,800	527	125,400	21,400	112,800	101
4	24,900	23,100	532	122,900	20,700	110,100	101
5	24,600	23,400	518	121,200	20,800	107,700	100
6(概数值)	22,900	..	524	..	21,200	111,100	100
対前年差	△ 1,700	nc	6	nc	400	3,400	0

水稻の年次別推移（福井県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	子実用	子実用					
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 26 年産	26,600	26,200	510	133,600	24,700	126,000	98
27	26,400	25,600	518	132,600	23,900	123,800	99
28	26,300	25,100	535	134,300	23,600	126,300	104
29	26,300	24,900	525	130,700	23,300	122,300	101
30	26,400	25,000	530	132,500	23,600	125,100	101
令和 元	26,400	25,100	520	130,500	23,600	122,700	100
2	26,200	25,100	518	130,000	23,300	120,700	99
3	26,100	24,500	515	126,200	22,500	115,900	99
4	25,700	23,500	515	121,000	21,600	111,200	99
5	25,500	23,300	500	116,500	21,500	107,500	98
6(概数值)	25,200	..	531	..	21,900	116,300	102
対前年差	△ 300	nc	31	nc	400	8,800	4

図2 県・作柄表示地帯別作況指数（9月25日現在）  
（農家等が使用しているふるい目幅ベース）



注： 作況指数は、10a 当たり平年収量に対する 10a 当たり予想収量の比率であり、都道府県ごとに、過去 5 か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

## 【北陸地域の調査結果】

- 令和6年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む。以下同じ。)は20万5,300ha(前年産に比べ3,000ha減少)が見込まれる。  
また、水稻の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は17万5,800ha(同1,800ha増加)が見込まれる。
- 9月25日現在における水稻の作柄は、新潟県及び富山県で5月下旬から6月上旬にかけて気温が平年を下回ったことなどにより、全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)が「やや少ない」となったほか、5月下旬以降、総じて気温、日照時間が平年を上回った福井県で「やや多い」、石川県で「平年並み」となった。  
登熟は、8月上旬以降、気温、日照時間が総じて平年を上回ったことから、新潟県、石川県及び福井県で「平年並み」、全もみ数がやや少ないことによる補償作用により富山県で「やや良」が見込まれる。  
この結果、10a当たり予想収量は、新潟県は537kg(平年に比べ5kg減少)、富山県は540kg(同7kg減少)、石川県は524kg(同1kg増加)、福井県は531kg(同12kg増加)で、北陸全体では、536kg(同2kg減少)が見込まれる。
- 農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は、新潟県が98、富山県が99、石川県が100、福井県が102で、北陸全体では99が見込まれる。
- 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は94万400t(前年産に比べ4万6,400t増加)が見込まれる。

表1 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量

区分	作付面積(青刈り面積を含む。)			10a当たり予想収量			主食用作付面積 ②	予想収穫量 (主食用) ③=①×②
	実数	前年産との比較		実数 ①	前年産との比較			
		対差	対比		対差	対差		
北陸	205,300	△3,000	99	536	△2	23	175,800	940,400
新潟県	119,800	△600	100	537	△5	26	101,400	544,500
富山県	37,400	△400	99	540	△7	12	31,200	168,500
石川県	22,900	△1,700	93	524	1	6	21,200	111,100
福井県	25,200	△300	99	531	12	31	21,900	116,300

- 注：1 作付面積(青刈り面積を含む。)及び主食用作付面積は、四捨五入しているため、県ごとの積上げ値が北陸値と一致しない場合がある。  
2 10a当たり予想収量及び予想収穫量(主食用)は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
3 予想収穫量(主食用)の北陸値は、県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

表2 令和6年産水稻の作柄概況(9月25日現在)

区分	10a当たり 予想収量 ①	農家等が使用しているふるい目幅で選別					作柄概況(平年比較)			
		最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり予想収量		10a当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	穂数の多少	1穂当たり もみ数 の多少	全もみ数 の多少	登熟の良否
			実数 ②	前年産との比較 対差						
北陸	536	mm	kg	kg	kg	99	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
新潟県	537	1.85	515	10	515	98	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
富山県	540	1.90	515	13	524	99	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
石川県	524	1.90	498	4	519	100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
福井県	531	1.90	494	△1	498	102	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み

- 注：1 ①10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
2 ②10a当たり予想収量、③10a当たり平年収量及び④作況指数については、県別に、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。なお、石川県については、本年産から1.90mmのふるい目幅に変更した。(前年産は1.85mm)  
3 石川県の前年産との比較は、本年産で採用したふるい目幅(1.90mm)で算出された10a当たり予想収量の差である。  
4 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや不良・やや少ない」が98~95%、「不良、少ない」が94%以下に相当する。

## 【管内各県の調査結果】

### 1 新潟県

(1) 水稻の作付面積は11万9,800ha（前年産に比べ600ha減少）が見込まれる。

このうち、主食用作付面積は10万1,400ha（同800ha増加）が見込まれる。

(2) 作柄は、5月下旬から6月上旬にかけて気温が平年を下回ったことから初期分けつが緩慢となり、穂数は「やや少ない」となった。

1穂当たりもみ数は、7月の日照が少なくなかったものの、気温が平年を上回ったことから「平年並み」となり、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数。以下同じ。）は「やや少ない」となった。

登熟は、8月上中旬の天候に恵まれたものの、下旬は日照が少なくなったことから「平年並み」が見込まれる。

このことから、10a 当たり予想収量は537kgが見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は98が見込まれる。

(3) 主食用作付面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は54万4,500t（前年産に比べ3万400t増加）が見込まれる。

### 2 富山県

(1) 水稻の作付面積は3万7,400ha（前年産に比べ400ha減少）が見込まれる。

このうち、主食用作付面積は3万1,200ha（前年産と同様）が見込まれる。

(2) 作柄は、5月下旬から6月上旬にかけて気温が平年を下回ったことから初期分けつが緩慢となり、穂数は「やや少ない」となった。

1穂当たりもみ数は、7月の気温、日照が確保されたことから「平年並み」となり、全もみ数は「やや少ない」となった。

登熟は、8月以降の天候に恵まれたことや全もみ数がやや少ないことによる補償作用により「やや良」が見込まれる。

このことから、10a 当たり予想収量は540kgが見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は99が見込まれる。

(3) 主食用作付面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は16万8,500t（前年産に比べ3,800t増加）が見込まれる。

図3

新潟県の作柄表示地帯別

10a 当たり予想収量（9月25日現在）

（1.70mmのふるい目幅ベース）

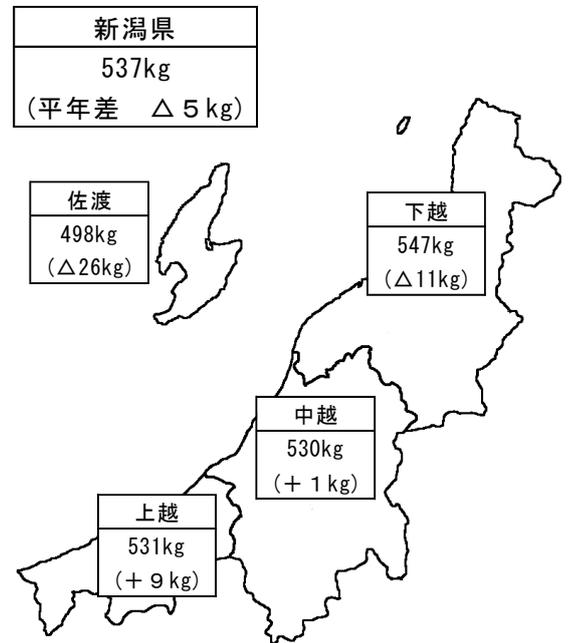
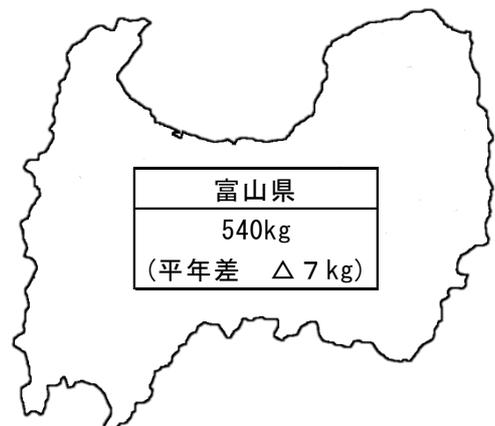


図4

富山県の10a 当たり予想収量

（9月25日現在）

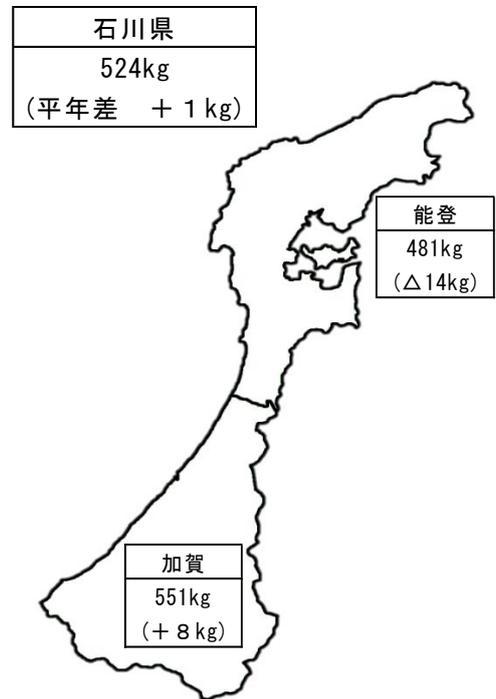
（1.70mmのふるい目幅ベース）



### 3 石川県

- (1) 水稻の作付面積は2万2,900ha（前年産に比べ1,700ha減少）が見込まれる。  
このうち、主食用作付面積は2万1,200ha（同400ha増加）が見込まれる。
- (2) 作柄は、5月中旬の気温が平年を上回ったことから初期生育は順調に進み、5月下旬の日照は少なかったものの、穂数は「平年並み」となった。1穂あたりもみ数は、7月の気温、日照が確保されたことから「平年並み」となり、全もみ数は「平年並み」となった。  
登熟は、8月以降の気温、日照が確保され「平年並み」となった。  
このことから、10aあたり予想収量は524kgが見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は100が見込まれる。
- (3) 主食用作付面積に10aあたり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は11万1,100t（前年産に比べ3,400t増加）が見込まれる。

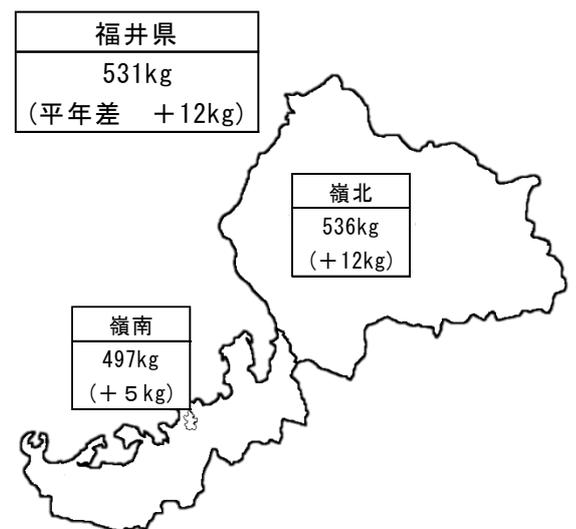
図5  
石川県の作柄表示地帯別  
10aあたり予想収量（9月25日現在）  
（1.70mmのふるい目幅ベース）



### 4 福井県

- (1) 水稻の作付面積は2万5,200ha（前年産に比べ300ha減少）が見込まれる。  
このうち、主食用作付面積は2万1,900ha（同400ha増加）が見込まれる。
- (2) 作柄は、5月下旬以降の気温、日照が確保され、穂数は「平年並み」となった。1穂あたりもみ数は、7月の気温が平年を上回り、日照も確保されたことから「やや多い」となり、全もみ数は「やや多い」となった。  
登熟は、8月以降の気温、日照が確保され「平年並み」となった。  
このことから、10aあたり予想収量は531kgが見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は102が見込まれる。
- (3) 主食用作付面積に10aあたり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は11万6,300t（前年産に比べ8,800t増加）が見込まれる。

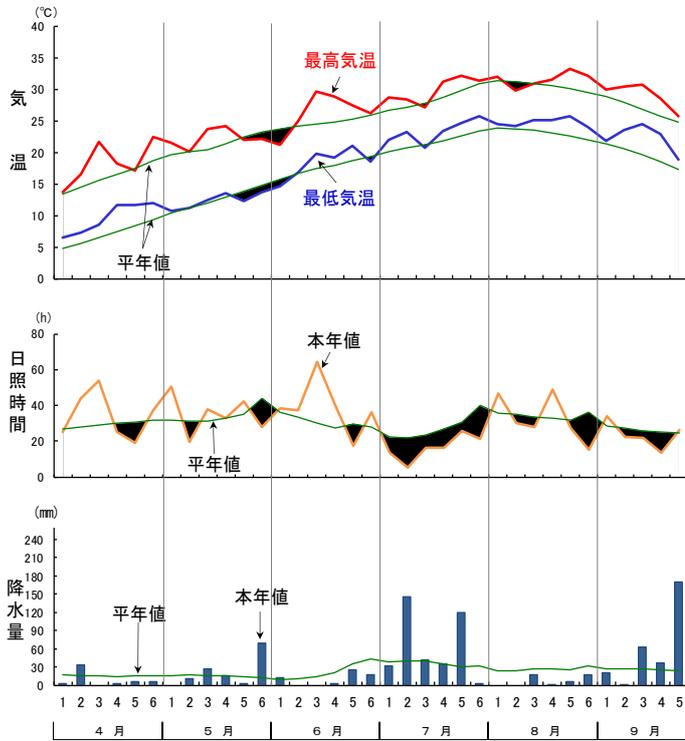
図6  
福井県の作柄表示地帯別  
10aあたり予想収量（9月25日現在）  
（1.70mmのふるい目幅ベース）



◎関連データ  
令和6年アメダス半旬別気象グラフ

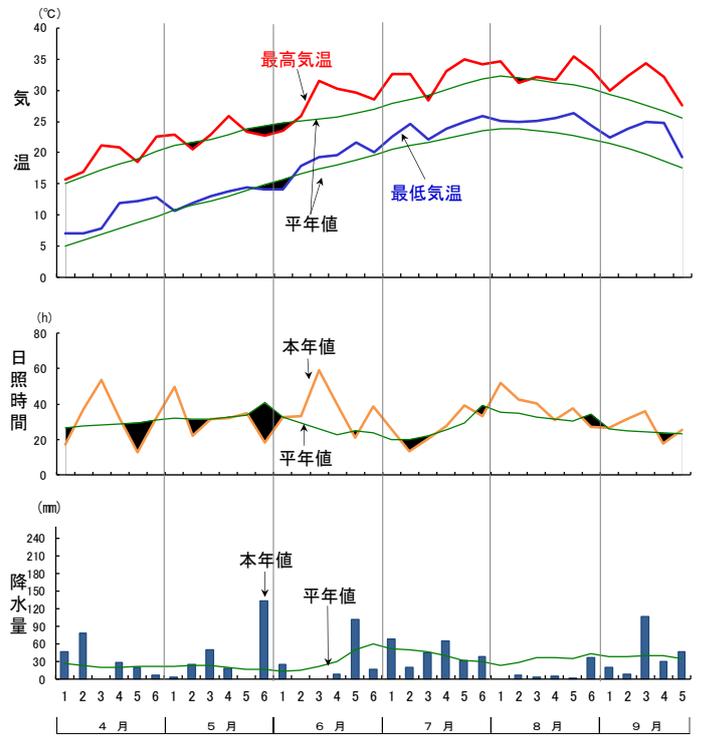
1 新潟

令和6年 アメダス半旬別気象グラフ(新潟)



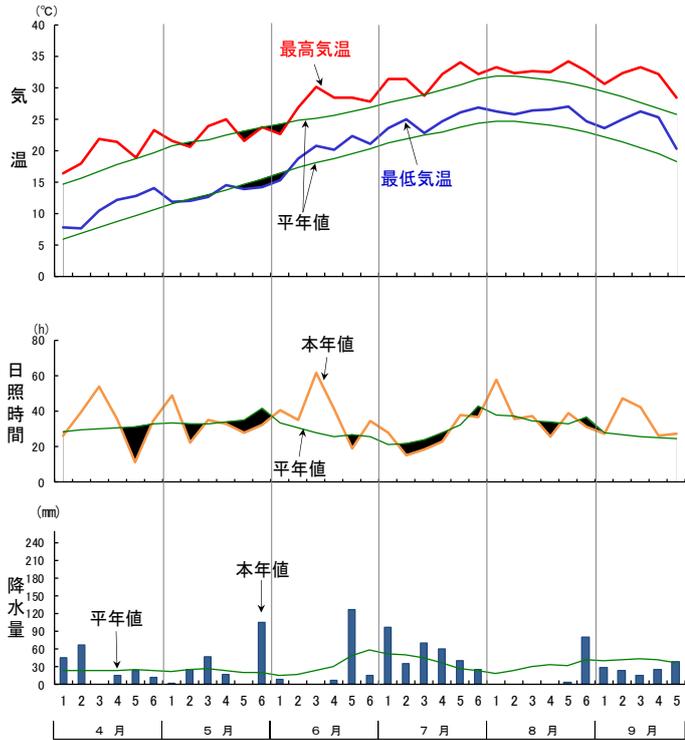
2 富山

令和6年 アメダス半旬別気象グラフ(富山)



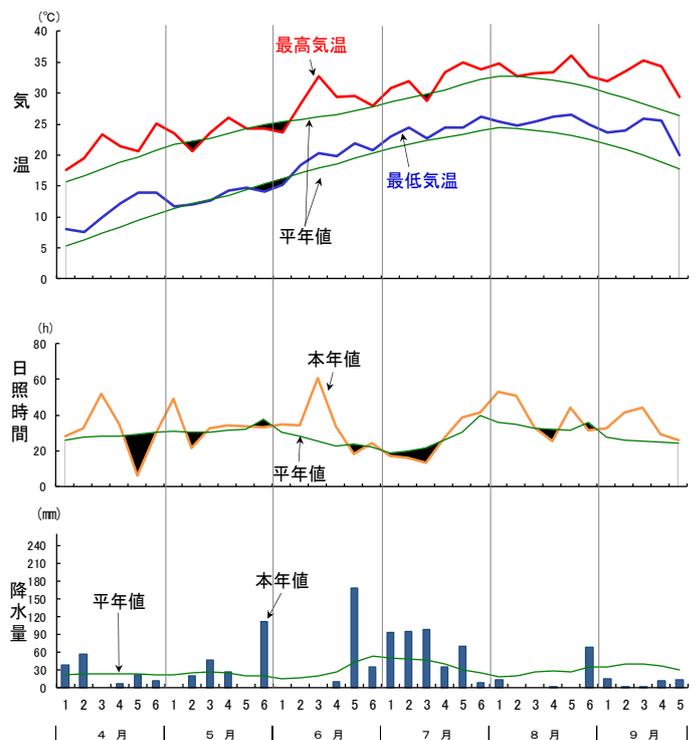
3 金沢

令和6年 アメダス半旬別気象グラフ(金沢)



4 福井

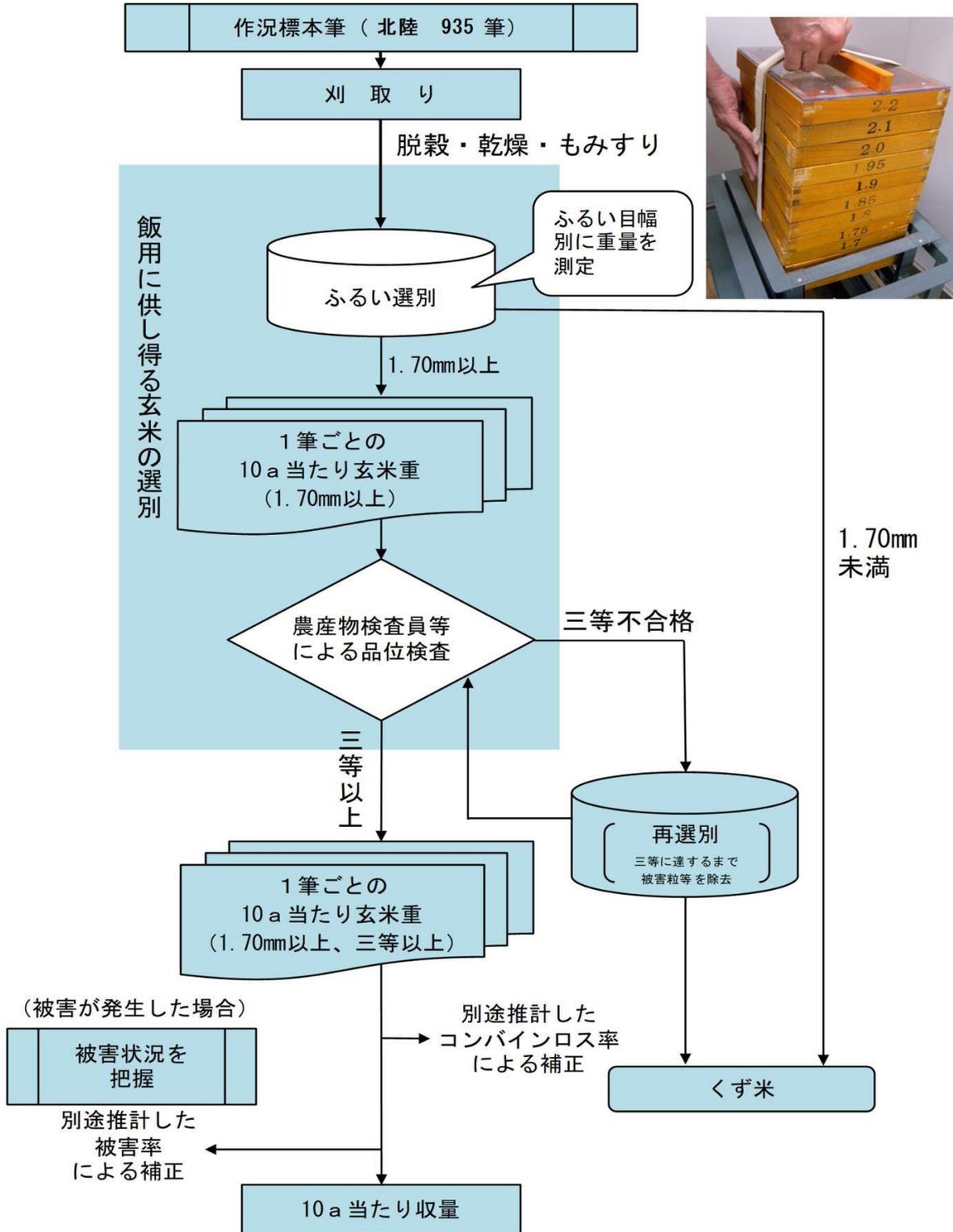
令和6年 アメダス半旬別気象グラフ(福井)



【参考1】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考2】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mmで選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。

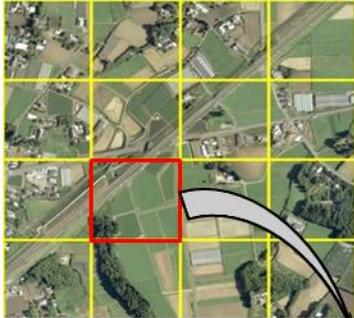


【参考2】

作況標本筆<sup>ふで</sup>とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）<sup>ふで</sup>は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（北陸で935筆）調査している。

全国の全ての土地  
(母集団)



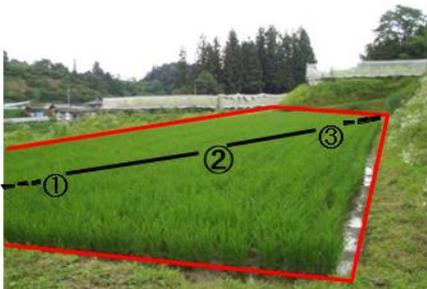
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区  
(200m四方の土地)



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆  
(北陸で935筆)



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

#### 【統計表】

[https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/xlsx/suitou\\_20240925.xlsx](https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/xlsx/suitou_20240925.xlsx)

#### 【調査の概要】

- ・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

- ・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農産物）

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/gaiyou/](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/)

#### 【水稲調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めるところとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

#### 【ホームページ掲載案内】

- ・ 北陸の各種農林水産統計調査結果は、北陸農政局ホームページ「統計情報」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/>

- ・ 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ「統計情報」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/>

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/#y3](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y3)

- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、農林水産省ホームページに掲載（令和7年2月予定）します。
- ・ 次回（10月25日現在）の公表は、令和6年11月中旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

## お問合せ先

### ◎本統計調査結果について

連絡先：北陸農政局 統計部  
生産流通消費統計課

電話：（代表）076-263-2161 内線 3643  
（直通）076-232-4895

連絡先：北陸農政局統計部（新潟県担当）

電話：025-224-1441

連絡先：北陸農政局統計部（富山県担当）

電話：076-441-0340

連絡先：北陸農政局統計部（石川県担当）

電話：076-241-3175

連絡先：北陸農政局統計部（福井県担当）

電話：0776-22-3676

### ◎農林水産統計全般について

連絡先：北陸農政局 統計部  
統計企画課 企画係

電話：（代表）076-263-2161 内線 3622  
（直通）076-232-4892



## 政府統計

政府統計の総合窓口  
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



# SAFF

データの力で。  
農林水産統計  
Statistics of Agriculture,  
Forestry and Fisheries

5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

#### 調査期間

令和6年12月中旬～令和7年2月末 農林業経営体調査

令和7年1月中旬～令和7年2月末 農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬～令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



## 農林業センサス

農林業センサス 2025

